



御嶽山 火山防災だより

vol.15

平成 25 年 3 月



◆火山噴火緊急減災対策砂防計画について◆

御嶽山では、火山噴火緊急減災対策砂防計画を平成 23 年 7 月に策定しました。緊急減災対策とは、火山噴火時に発生が想定される火山災害の被害をできる限り軽減（減災）するために緊急時に実施する火山防災対策のうち、国及び都道府県の砂防部局が実施する対策のことです。この計画は、噴火の時間経過に応じたハード（工事など）やソフト（監視・観測など）対策を行うことが特徴になっており、噴火時に間に合わない対策や関係機関の連携体制などは平常時より準備しておくことを示しています。

◆御嶽山の火山観測①(カメラ)◆

御嶽山では、カメラ、GPS、地震計、空振計、地盤傾斜計等による火山活動監視が国土交通省、気象庁、長野県、岐阜県、大学等により行われています。御嶽山では、気象庁が1か所と多治見砂防国道事務所が3か所に火山監視用のカメラを設置しています。現在設置されているカメラは、高感度カメラと言って、わずかな光を感じ、夜間でも鮮明な画像が得られる特殊なものです。高感度カメラの導入によって夜間でも火山の様子が変わるようになりました。なお、これらの画像は、多治見砂防国道事務所HPにおいてインターネット配信しております。

平成 25 年度以降に、岐阜県側に 2 台カメラを追加し、火山監視の強化を図っていきます。

《高感度カメラによる御嶽山の映像（夜間）》



開田

御嶽山のめぐみ ⑭

御嶽山の頂上にある御嶽神社奥社は、大宝二年（702）に信濃国司高根通基によって創建されました。また、疫病が流行していた宝亀五年（774）、信濃国司石川朝臣望足が登拝し、社殿を営み祈願したところ、疫病が終息したといわれています。その昔、百日間肉食を断つなどして身を清める修行をした者でないと御嶽山に登ることができませんでした。

江戸時代の頃、覚明というお坊さんが黒沢口登山道を開いたことにより、尊いお山である御嶽へだれでも登ってお参りができるようになりました。

御嶽山への登拝者増加は、今日の本曾谷一帯への経済的効果をもたらしてくれました。



御嶽山頂上にある御嶽神社奥社

《御嶽山を監視するカメラ》



以下のサイトで御嶽山の映像が見られます。多治見砂防国道事務所のHPでは火山噴火緊急減災対策砂防計画もみられます。

多治見砂防国道事務所
気象庁

http://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/desk/ontakesan_live.html

<http://www.seisvol.kishou.go.jp/vo/32.php>

◆御嶽山の火山監視② GPS◆

火山が噴火する前には、地下・地表で様々な変化が発生します。地下では、マグマや熱水が上昇するときに岩盤を壊すことによって小さな地震が発生します。火山活動が活発化しマグマが上昇してくると、ごくわずかに山がふくらみます。加えて、噴気活動の活発化や火山ガスの成分が変化することも知られています。これらの変化はごく小さいものであり、このわずかな変化をとらえる努力が直前噴火予知の研究とも言えます。山のふくらみをキャッチして、噴火前にマグマの上昇を捉えようとする観測計器の一つが、GPSと呼ばれる計器です。GPS観測は、2点間の距離や高さを計り、その間の伸び・縮みや上下の変動量によって、マグマの動きを推定するものです。御嶽山周辺では、気象庁が3基設置しており、国土地理院も複数設置しています。

◀ 気象庁による御嶽山のGPS観測 ▶

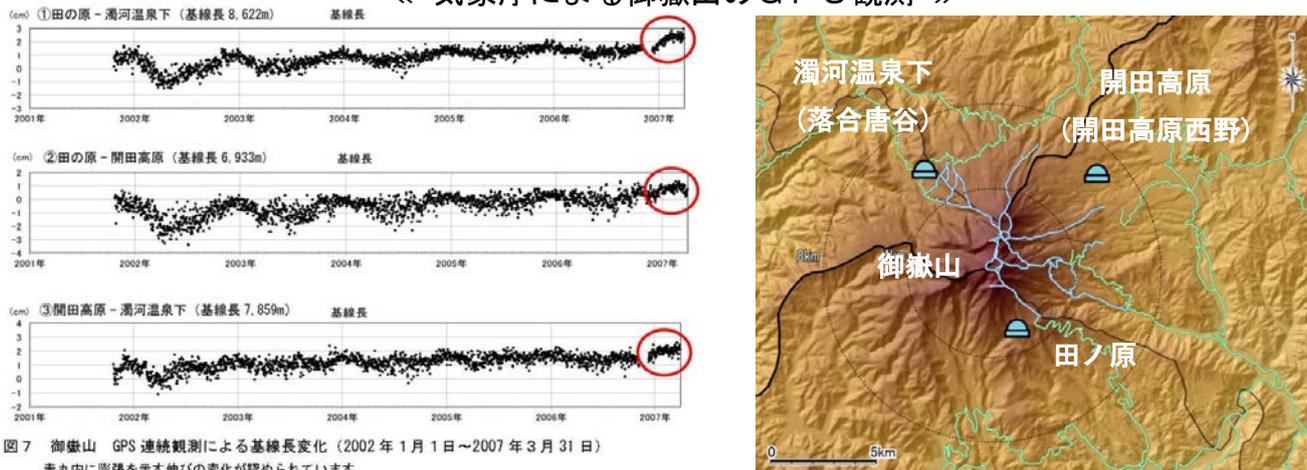


図7 御嶽山 GPS 連続観測による基線長変化 (2002年1月1日~2007年3月31日)

赤丸内に膨張を示す伸びの変化が認められています。

気象庁：2007年3月の火山活動解説資料の例より。気象庁ホームページの火山活動解説資料のページに火山の状況が掲載されています。右図の括弧内は現在の名称です。(http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html)

御嶽山と人

名古屋市民おんたけ休暇村(南信州山岳ガイド協会所属) 齋藤晃さん

御嶽山は雄大で裾野も長く、高山植物もたくさん咲きます。残雪、新緑、山菜、花、木の実、紅葉、雪山と四季を通じて変化のある登山を楽しむことができ、これらのガイドをできる御嶽山の恵みに感謝しています。お客さまには名古屋市民の方が多く、御嶽山から流れ出す木曾川の水も利用しています。御嶽山がもたらす恵みは上流域の人たちのものだけではないので、もっと下流域の人たちにも御嶽山を大切にいただき、上流域としても責任を持って森林など整備していかなくてはいけないと思っています。



その取り組みのひとつとして、おんたけ休暇村では、名古屋市民の方に植樹や間伐、草刈りをしていただいたり、王滝村の方に講師をお願いして地域に伝わる食文化を伝えるイベントや農業体験を行っています。人と川を通じて地元の文化が広まっていく、これも御嶽山の恵みと言ってもいいですね。自然は、人にとって優しい面がたくさんあります。しかし、ひとたび牙を剥くと人力では到底及ばない大災害が発生するのです。人間は、自然に対してもっと畏怖と畏敬の念をもって接するべきだと常々思っています。昭和54年の噴火後、現在山頂ではひとつだけ小さな噴煙をあげていますが、日によって噴煙の量が違うんですね。風向きによっては登山道まで臭いが来ます。硫化水素ですからなかには体調の悪くなる人もいます。自然の変化によって再び火山活動が起きるかどうかわからないものですから、火山や地震の観測システムの充実化を望みます。

既刊はこちら↓ (多治見砂防国道事務所HP内)

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/sabo/ontake/ontakesan.html>

国土交通省中部地方整備局 多治見砂防国道事務所

〒507-0023

岐阜県多治見市小田町4-8-6

砂防調査課

TEL: 0572-25-8020 (代表)

FAX: 0572-25-7994

E-mail: tajimi@cbr.mlit.go.jp

協力：王滝村・木曾町・高山市・下呂市